



市民と 議会の つどい

語ってみゆーか!

市民と議会のつどい（10月28・29日）において、皆様からいただいたご意見・ご要望は、市政一般質問で取り上げるとともに、所管の常任委員会ごとに振り分け、専門的に調査・研究を行い、随時、議会だよりやホームページでご報告してまいります。

スポーツ・文化部等が全国大会へ出場した場合の助成措置はどのように取られているのか。

理事者から「全国大会の基準に合致しているものについては、文化基金等において助成を行っている」との回答。新しく創設された「こども夢基金」（3ページ参照）においても、活用事業として全国大会出場チームへの助成金等の検討を行うよう要求しました。

バス路線の廃止、減便により、自宅の近所に商店がない高齢者が買い物難民となっている。対策を講じてほしい。

理事者から「現在バス路線の抜本的な見直しを行っている。今後も県と協議しながら23年度中にバスの再編を行う予定である」との回答。県営バスありきの議論ではなく、デマンド交通システムなど新しい交通形態を構築し、市民生活に出来る限り負担をかけないよう要求しました。

市長が「市内8地区に自由に使える予算を設ける」と言っていたが、本真か。

市政一般質問において数名の議員が質問。市長から「市内8地区に、人口規模や面積などに応じた予算を配分し、地域の活性化や安心・安全、地域コミュニティの再生のために実施すべき事業を、地域で決定、実施していただくものである。予算については、1地区の限度額を500万円以下と想定している」との回答。

まちづくりとして、市街地再開発と新幹線駅前開発といった2つの重点開発を行うのは無理ではないか。

理事者から「新幹線駅前開発は、市街地再開発と違って大規模な商業施設などは考えておらず、駅舎、駐車場、駅前広場など、必要最小限のものを考えている」との回答。議会でも、事業費など財政面を中心に、今後も2つの開発に注視していきます。

デマンド交通システムとは、地元のタクシー会社や自治体の小型乗合自動車で、利用者を自宅などから目的地まで効率的・低額で送迎する新しい交通システムです。総務委員会では、長野県上田市のデマンド交通システムを視察に訪れるなど、このシステムについて調査研究を行っています。

大村市議会では、平成21年度より新幹線対策等特別委員会を設置し、市の費用負担や新駅周辺整備等について、市と協議を行っています。



新幹線新駅予定地

編集後記

市民の皆様、議会報2月号では、12月定例会・臨時会の内容をお届けしています。

これまでの議会報は、紙面いっぱい隙間なく文字を並べて編集し、これをよしとしていました。

最近の編集では、重要な決定事項を中心に、カットや写真を多用し、読んでみたくなる、見た目もスマートな編集を心がけています。定例会や臨時会の内容をもっと詳しく知りたい方は、インターネットで大村市議会のホームページをご覧ください。

今後も広報委員会では、広報部会（議会活動検証組織）での研究と合わせて、議会報の改善・進化を推進します。

紙面について、市民の皆様のご意見をお寄せください。（久野 正義）

広報委員会

久野正義・馬場重雄
伊川京子・松崎鈴子
田中守・三田村美津子
園田裕史・永石賢二
中瀬昭隆